児のそら寝　休校中課題

（語句・文法）

一　次の語句を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きましょう。

①待ちゐたるに　②さぶらはむ　③おどろかせたまへ
④をさなき人　⑤食ひに食ふ音

二　次の語句の意味を、辞書や携帯を使って調べてみよう。

①つれづれ　②わろし　③さだめて　④おどろく　⑤いらふ
⑥念ず　⑦わびし　⑧ずちなし　⑨無期

（要点の整理）

★空欄ア～コに入る言葉を本文を踏まえて考えて、ノートに書きましょう。

昔、〔　ア　〕に一人の児がいた。

児は、僧たちが夜に何もすることがなく退屈で、〔　イ　〕を作ろうとしていることを知った。そうかといって、寝ないで待つのも〔　ウ　〕が悪いだろうと児が思って、〔　エ　〕をしているうちに、僧たちは早くもぼたもちを作り上げた様子で、騒ぎ合っている。

児の〔　オ　〕の通りに起こしてくれる僧がいたが、児はそれを待ちかまえていたと思われたくないので、もう一声かけられてから起きようと考え、〔　カ　〕を続けた。

ところが、児の〔　キ　〕に反して、起こすのを制止する〔　ク　〕がして、後は自分を起こそうとする気配もなく、僧たちがぼたもちをむしゃむしゃ食べている〔　ケ　〕ばかりが聞こえてくる。

ずっと後になって、児は仕方なく「はい。」と〔　コ　〕はずれの返事をしたので、僧たちはおかしがってとめどもなく笑ったことだった。

（内容の理解）

一　次の①～⑤の主語は、ア「児」、イ「僧たち」のどちらか、記号で答えよう。

①わろかりなむと思ひて、（二三〇・3）　②うれしとは思へども、（二三〇・7）
③待ちけるかともぞ思ふとて、（二三一・1）　④あな、わびしと思ひて、（二三一・13）
⑤思ひ寝に聞けば、（二三一・4）

二 次の①・②の傍線部の下には、口語訳する時にどのような助詞を補えばよいか、記号で答えよう。

①児ありけり。（二三〇・1）　②かいもちひせむ。（二三〇・2）

ア に　イ を　ウ が　エ と

三 「いざ、かいもちひせむ。」（二三〇・1）という言葉は、「僧たち」が誰に対して言った言葉か書こう。

四 「寝たるよしにて、」（二三〇・4）とあるが、「児」がそうしたのはなぜか。その理由として「児」が心の中に思っている箇所を、本文中から二十二字以内で抜き出そう。

五 「念じて寝たる」（二三一・2）とあるが、「児」がそうしたのはなぜか。その理由として「児」が心の中に思っている箇所を、本文中から二十二字以内で抜き出そう。

六 「えい。」（二三一・5）という言葉は、どの言葉に対する返事か。該当する言葉を抜き出して、初めの八字を書こう。

七 「僧たち笑ふこと限りなし。」（二三一・6）とあるが、「僧たち」が笑ったのはなぜか。その理由を二十字以内で簡潔に書こう。

八 この話は、「児」の細かい心遣いがかえって失敗のもとになった滑稽な話で、その面白さは「児」の心の動きにある。「児」の心は何に反応して一喜一憂しているか。本文中の一語（漢字一字）で、二つ書こう。

九 この話の中の児の状況に近いことわざを、記号で答えよう。

ア 棚（たな）からぼたもち　イ 果報は寝て待て

ウ 背に腹は替えられぬ　エ 腹が減っては戦（いくさ）はできぬ